

・診断名：気管支拡張症 (primary ciliary dyskinesia)  
 ・主訴：呼吸困難  
 ・現病歴：幼少時から肺炎を繰り返し、12歳の時気管支拡張症と診断された。以後呼吸器感染を繰り返し5年前からは酸素吸入を必要とするようになり、2年前からは松本市内の病院で治療を続けていたが、症状は進行し1ヶ月前信州大学に入院した。しかし、症状は進行し、各種感受性抗生剤投与にもかかわらず発熱が持続し、当院入院10日前には呼吸不全となり人工呼吸器管理となり、気管切開を受けた。保存的治療の限界と診断され、肺移植の適応を検討されて、1998年10月23日岡山大学附属病院に入院した。

入院時には人工呼吸器が装着されていたが、意識は清明でチアノーゼはない。胸部聴診で全肺領域に湿性ラ音を聴取した。動脈血液ガス分析では人工呼吸下 (FiO<sub>2</sub>=0.6, TV380ml, PEEP 3cm, PS25cm) でPO<sub>2</sub> 82.6mmHg, PCO<sub>2</sub> 68.9mmHg, SaO<sub>2</sub> 95.7%であった。

胸部X線写真では全肺野に網状影と浸潤影があり、輪状の気管支拡張像がありその中に液面形成を認め、経時的に増悪していた。胸部CT写真でも両上肺野優位に著明な気管支拡張像を認め、一部には粘液様物質の貯溜を認める部分がある。

肺移植以外に救命する方法はなく、慎重に検討の後生体部分肺移植の適応と判定し10月28日に実施した。生体肺移植では臓器提供者は2名必要であり、本例では母親と妹がそれぞれ左下葉と右下葉を提供した。

手術はまず提供者1(妹)右開胸を開始し、ついでレシピエントの手術開始後ドナー2(母)の左開胸が開始された。レシピエントの開胸開始後約1時間40分でまず右肺全摘が終了し、ついで1時間で左肺摘出が終了した。両胸腔を十分に洗浄し、止血を確認した後右肺移植を開始した。右肺移植に要した時間は約50分、ついで左肺移植を開始し45分で終了した。この間の人工心肺使用時間は6時間34分、手術時間は7時間46分であり、出血量は約2Lであった。

術後2日目に肺水腫が発生したが、その後は順調な経過をたどり、術後2ヶ月目に無事退院し術後6ヶ月の現在郷里の病院に外来通院し免疫抑制剤などの治療を続けている。

\*\*\*\*\*

## 平成10年度理事会報告

平成10年度の理事会は2回開催された。第1回目は7月18日(土)12時50分から13時15分まで岡山大学薬学部で、第2回目は11月27日(金)12時50分から13時10分まで岡山国際交流センターで開催された。

### 第1回理事会

①平成9年度の活動報告：岡山県新技術振興財団との共催で、特別講演会が3月6日(木)岡山大学農学部で、第33回が7月12日(土)岡山大学農学部で、創立15周年記念、第34回が11月28日(金)メルパルク岡山で開催、第14号の研究会報の発行(10月)と会員への送付(11月)、理事会の開催(7月12日、11月28日)、常務理事会の開催(5月29日、10月7日)の報告があった。

②平成9年度(1月1日から12月31日)までの会計収支決算報告があった。前年度繰越金は711,632円、会費142,000円、賛助会費390,000円、岡山県新技術振興財団からの補助金100,000円、利子366円の収入合計1,343,998円、これに対して印刷費131,775円通信費47,320円、研究会補助費：特別講演会30,000円、第33回研究会80,000円、第34回研究会304,475円、雑費4,595円の支出合計598,165円で、残高は745,833円であった。会計監査が中永征太郎先生、河本泰生先生の両監事によって5月26日に行われたことの報告があった。なお、残高745,833円は次年度繰越金として組み入れる報告があり、了承された。

③役員の選任：会則に則り常務理事に辻岡克彦教授(川崎医科大学・生理学教室)を推挙した。

④平成10年度の活動計画：第35回研究会は本日7月18日(土)岡山大学薬学部において、第36回は11月下旬から12月上旬に公共施設においていずれも岡山県新技術振興財団との共催で開催する予定であることが報告された。第15号の会報の発行と理事会(2回)、常務理事会(3回)の開催を予定している。

### 第2回理事会

①平成10年度の活動報告：岡山県新技術振興財団との共催・後援で2回の研究会を開催、第35回研究会は7月18日(土)岡山大学薬学部で、第36回研究会は本日11月27日(金)開催。研究会報14号の発行、理事会(7月18日、11月27日)・常務理事会(6月11日、9月29日、10月27日)開催の報告があった。

②平成10年度(1月1日から11月24日まで)の収入、支出、残高の状況報告があった。収入額は前年度繰越金745,833円、会費70,000円、賛助会費150,000円、岡山県新技術振興財団からの補助金70,000円、利子342円の合計1,036,175円、一方支出額は印刷費131,775円、通信費52,240円、研究会補助費：第35回研究会70,000円、雑費13,798円の合計197,813円で、残高は838,362円であった。

③役員の選任：次期(平成11,12年度)の役員として、理事17名、監事2名を再選し、了承された。

④平成11年度の活動計画：2回の研究会を岡山県新技術振興財団の後援で開催する予定である。第37回研究会は岡山大学医学部(会員持ち回り会場)で開催する予定であることが報告された。第16号の研究

会報の発行と理事会、常務理事会(各2回)の開催を予定している。

\*\*\*\*\*

## 平成11年度理事会報告

平成11年度の第1回の理事会は5月26日(水)12時50分から13時10分まで岡山大学医学部で開催された。

①平成10年度の活動報告：岡山県新技術振興財団との共催・後援で、第35回研究会が7月18日(土)岡山大学薬学部で、第36回が11月27日(金)岡山国際交流センターで開催、第15号の研究会報の発行(9月)と会員への送付(10月)、理事会(7月18日、11月27日)、常務理事会(6月11日、9月29日、10月27日)の開催の報告があった。

②平成10年度(1月1日から12月31日まで)の会計収支決算報告があった。前年度繰越金は745,833円、会費94,000円、賛助会費180,000円、岡山県新技術振興財団からの補助金70,000円、利子342円の収入合計1,090,175円、これに対して印刷費131,775円、通信費53,140円、研究会補助費：第35回研究会70,000円、第36回研究会313,753円、雑費14,138円の支出合計582,806円で、残高は507,369円であった。会計監査が中永征太郎先生、河本泰生先生の両監事によって5月24日に行われたことの報告があった。なお、残高507,369円は次年度繰越金として組み入れる報告があり、了承された。

③平成11年度の活動計画：第37回研究会は本日(5月26日)岡山大学医学部において、第38回は11月下旬から12月上旬に公共施設においていずれも岡山県新技術振興財団の後援で開催する予定であり、第16号の会報の発行と理事会(2回)、常務理事会(3回)の開催を予定している。なお、第1回の理事会は本日の5月26日に、第1回の常務理事会は4月13日に開催されている。

## 「岡山実験動物研究会の会費に関する内規」

(趣旨)

第1条 この内規は、岡山実験動物研究会の会費に関し必要な事項を定める。

(会費の目的)

第2条 岡山実験動物研究会の円滑な運営のために、正会員ならびに賛助会員は、定められた会費を納入する。

(会費の金額)

第3条 会費は、年会費とし、金額は下記の通りとする。

1. 正会員 1,000円
2. 賛助会員 30,000円(一口)

(会費の納入)

第4条 会費は、郵便払込通知票、現金などで年度ごとに納入する。

(会費の免除)

第5条 名誉会員は、会費が免除される。

附則

この内規は、昭和59年12月8日から施行する。